

とにかく當地は大日本史に明治維新に大分歴史上名高き地に御座候へども例の私故學校の事と追はれ又はぼんやりいたし居り十分よくも存せず二年間も居りながら皆様に申上げて御役に立つるやうな事は一つも御座なく残念に存じ候。唯何か御調の必要にても御座候は、出来る丈御手傳いたし度くまた御ひまの折御出で下さらば喜んで御案内申上べく候。昔しのばれ御折から御端書に接したゞ御なつかしさのあまり筆とり候へど申上げ度き事は山々ながら筆のはこびの心にまかせずここに此頃は學年末にて成績調査やら作文添削に机上はいつも山と相成り居り心せはしき日を送り居り候まゝ亂筆にて一言御申わけのみと申上候。なほ先生はじめ會員皆々様の御健康と文科會のますゝ發展せらるゝことをはるかに祈り居り候 かしこ

●編輯便り

春だ。今年は殊に花の多かつた校庭の梅も、もうそろそろ散りかけた。東校舎の玄關前にも

クローバーが新しい芽をふき出した。お茶の水の流れさへ、どうやら水かさが増したやうな気がする。いき／＼と若草の萌え出て堤の上では、寒さにかまけて居た近所の子供達がよみがへつたやうに嬉々として遊んで居る。夜おそく圖書室から歸るにしても、耳を切るやうなあの冷たい風はもう吹かぬ。

どうしても春だ。おつくうだつた夕食後の散歩も又しては長くなる時だ。もぐり上つた黒土を踏むとざく／＼音がする。春らしく霞んだ空にはニコライの塔がぼんやり浮んで居る。そんな時に私達はよくあの廣い校庭に出てほしい儘な散歩をする。笑ひさゝめいて居た樂しさうな幾組かの群も見えなくなつて、紅梅町の街の灯が青く赤くまたゞき出すと、電車の音も急に速力を増したやうに強く響いて来る。私達はいつまでもいつまでも、心ゆく迄さまよつて居りたい月の美しい夜や星のきれいな晩などは、大空に向つて思ふさま聲を立て、見たいと思ふ事もある。然し默學の鐘や、急に來る夜風の寒さは、

いつまでも私達をかうした境に置く事を許さぬ夢のやうな遠い國に引つ張られて居る私共の心には、默學の鐘か警鐘のやうに鳴り響く。試験といふ大波もだん／＼近く押し寄せて來たのだ愚圖々々しては居られぬ。かうつぶやいて私共はあはて、部屋に歸つて机に向ふ。かうした試験前の緊張した心。私はそれを貴い生き甲斐ある生活だと思ふ。

毀された西校舎の材木はそのまゝ高く積まれてある。さすがに廢殘のいたましい思ひもせぬではないが一日々々と目に見えて出來上つて來る新校舎をみればそゞろに新しい喜びが湧いて來る。寄宿舎の購置部も追々擴張せられて商人らしいお世辭さへちよい／＼聞かされる。母校の發展を喜んで頂きたい。

この雑誌は今年度の最終のものとなつた。あまりにブーアであつた事はお許しを願ふより外はない。

しかしお忙しい中を快よくお書き下さつた先生方の御助力によつて光を添へた事は感謝して

頂きたい。

かういふ事にふなれな私達は原稿の集まらぬのに少なからずうろたへた。期日が迫つて來てからあはて、卒業生の方に、御寄稿を乞うた。學藝會や入學試験や數多い調べ物を目前にひかへて居られる事は承知しながら無遠慮なお願ひをした。ことはられても仕方がない私はもうあきらめてがっかりして居た。四日の夜不意に二通の原稿が届いた、續いて五日に又一通届いた。萎れて居た私共は飛び上るほごよろこんだ。大丈夫出來ると自信が湧いて來さうしてこれだのものでも出來上つた私は三人の方に心からお禮を申上げねばならぬ。(幹事)

